ランキングにおいて評価を高めたゴルフ場に関する研究

トップスポーツマネジメントコース
５０１３Ａ３０１－８　秋山　朋胤　　研究指導教員：平田　竹男 教授

1.　背景

世界には様々な国にゴルフコースの評価をするゴルフコースランキングが存在し、それぞれのランキングが独自の視点でゴルフコースを評価している。米国のランキングでは評価項目とパネリスト、そしてそれぞれのゴルフコースの評価点数が明らかになっているが、日本のランキングでは、その評価点数は明らかにされていない。

これらのランキングの上位に入ることは各ゴルフ場の目標の１つでもあるが、ランクインしたゴルフコースのデータや、ランキング変動にはどのような取り組みが影響しているかについての詳細は不明である。

２．目的

本研究の目的は、ランキング上位のゴルフコースデータを調査分析し、その傾向を明らかにした上で、ゴルフコースのランキングアップに向けゴルフ場が行うべき取り組みを明らかにすることである。

３．研究手法

１）対象とするゴルフ場ランキングと期間

日本のゴルフコースランキングは、2004～2013年の９シーズンの「日本のベスト100コース」(ゴルフダイジェスト社チョイス誌発表。以下、ベスト100とする）を、世界のゴルフコースランキングは、2003年以降５シーズンの「Top 100 Courses in the World」(Golf Magazine発表。以下、TOP100とする）で選ばれたコースとした。

２）データ収集

対象とするランキングの年次データ、およびコースのデータとして、期間に上位30コースのランクインした各コースの開場年・ホール数・PAR数・面積・全長距離・設計家・改修設計家・コースレート・メジャートーナメント開催実績・トーナメント開催実績・大規模改修実施の有無・グリーン数・最長ホール距離・最長PAR3ホール距離・最長PAR4と最短PAR4の距離差・練習場距離・至近の政令指定都市からの距離・所用時間・バンカー数の19項目についてデータ収集した。

３）分析方法

収集したデータについて、①日本のTOP10と日本のSECOND20、②世界のTOP10と日本のSECOND20、③日本のTOP10と世界のTOP10のデータを比較した。比較にはｔ検定を用いた。

ランキング変動については、変動パターンを類型化し、下位カテゴリーからランキングアップしたゴルフコース、下位カテゴリーにランクダウンした後再びランキングアップしたゴルフコースの２パターンについて、ランキングアップに作用した要素の抽出を行った。

４）現地調査

さらに着目すべき変動パターンに該当したMerion GC、Augusta National GC、Royal St. George's GCの各コースには、現地調査データの分析を行った。

４．結果

１）日本国内ランキング

ベスト100入りした実績のあるコースは141コースあった。

最上位カテゴリーであるTOP10（以下、T1とする)にランクイン実績のあるコースは15コース、T1に次ぐSECOND20（以下S2とする）にランクイン実績のあるコースは26コースあった。

T1とS2のデータ比較では、開場年、面積、メジャートーナメント開催実績、練習場距離に有意差が認められた（表1)。

２）世界ランキング

TOP100にランクインした実績のあるコースは、128コースあった。T1にランクインした実績のあるコースは13コース、S2にランクインした実績のあるコースは、21コースであった。

T1とS2のデータ比較では、PAR4の距離差に有意差が認められた（表2)。

表 1 ベスト 100 における T1 と S2 のデータ比較

項目	TOP10	SECOND20	p Value
開場年(年)	1937.93	1961.92	0.00
ホール数	18.00	20.10	0.08
PAR数	71.93	80.38	0.08
面積	724200	962269.2	0.00
全長距離	6890.30	7733.60	
設計家			
改修設計家			
コースレート	73.19	72.59	0.36
メジャートーナメント開催実績	3.06	0.96	0.00
トーナメント開催実績	0.33	0.38	0.75
大規模改修実績	9.00	8.00	0.08
グリーン数	1.20	1.34	0.31
最長hole(yard)	571.00	565.69	0.50
最長PAR3 hole(yard)	217.00	213.50	0.56
PAR4距離差(yard)	102.46	99.07	0.72
練習場距離	218.00	260.65	0.03
至近の政令して都市からの距離	22.31	32.40	0.08
所用時間	35.73	42.96	0.20
バンカー数	77.87	81.96	0.64

表 2TOP100 における T1 と S2 のデータ比較

項目	TOP10	SECOND20	p Value
開場年(年)	1892.38	1919.61	0.38
ホール数	18.00	18.00	
PAR数	71.07	71.28	0.52
全長距離	7045.86	6880.09	0.12
設計家			
改修設計家			
コースレート	75.07	74.55	0.46
メジャートーナメント開催実績	11.38	2.85	0.18
トーナメント開催実績	2.38	1.33	0.12
大規模改修実績	3.00	7.00	0.60
グリーン数	1.00	1.00	
最長hole(yard)	585.46	562.04	0.13
最長PAR3 hole(yard)	224.53	216.09	0.34
PAR4距離差(yard)	156.15	127.54	0.02

表 3 世界と日本の TOP10 のデータ比較

項目	世界	日本	p Value
開場年(年)	1892.38	1937.93	0.15
ホール数	18.00	18.00	
PAR数	71.07	71.93	0.01
全長距離	7045.86	6890.30	0.14
コースレート	75.07	73.19	0.19
メジャートーナメント開催実績	11.38	3.06	0.18
トーナメント開催実績	2.38	0.33	0.00
大規模改修実績	3.00	9.00	0.11
グリーン数	1.00	1.20	0.08
最長hole(yard)	585.46	571.00	0.32
最長PAR3 hole(yard)	224.53	217.00	0.42
PAR4距離差(yard)	156.15	102.46	0.00

表 4　ランキングアップに作用した取り組み

取り組み	日本のベスト100コース	Top 100 Courses in the World
トーナメント開催実績	5/17(29.4%)	3/5(60%)
改修実績	3/17(17.6%)	1/5(20%)

3）世界と日本の TOP10 データ比較

世界 TOP10 と日本 TOP10 の比較では、PAR 数、トーナメント開催実績、PAR4 距離差に有意差が認められた（表 3)。

4）ランキング変動に作用した取り組み

ランキングアップしたコースはベスト 100 では 17 コース、TOP100 では 5 コースあり、ランキングアップと関連していた要因はトーナメント開催実績と改修実績だった（表 4)。

5）現地調査の結果

3 コースの現地調査を行った結果、いずれのコースもホール間やコース隣接地に、ギャラリーエリアやスポンサーブース、TV 放送機材車用エリア等が広く確保されていることが確認された。同時に、コース全体についての高低差が大きく、フラットなコースが少ないことが確認された。さらにコース管理の道具にはコースコンディション向上のために最新機器を備えていた。

5．考察

日本ランキングにおいては、歴史が古く、メジャートーナメント開催実績の多いこと、世界ランキングにおいては最長と最短 PAR4 の距離差の大きいことが最上位グループにランクされる要素として抽出された。また、ランキングアップにはトーナメント開催実績と改修実績が影響を及ぼしているという結果が得られた。つまり、メジャートーナメントの開催誘致を見据えたゴルフコースの改修を実施することが、世界ランキングにおいて、日本のゴルフコースが最上位グループにランクインするために必要とされる取り組みであることが明らかとなった。

本研究では、ゴルフコースデータを調査分析することにより、上位にランキングされたコースの傾向とランキングアップ要因を明らかにした。しかし、ゴルフコースの評価を決める要素としては、ゴルフコースデータ以外にもクラブライフの充実度、ゴルフコーススタッフのサービス等も挙げられる。また、ゴルファー、ゴルフコースオーナー、ゴルフコース設計家、ゴルフコース管理者、トーナメント運営者等それぞれの立場によってゴルフコースに対する評価も異なると考えられるため、今後も更なる検討が必要である。

6．結論

本研究の結果、日本のゴルフコースが、世界ランキングで最上位グループにランキングされるためには、トーナメント開催誘致を見据え、PAR4 ホールに十分な距離差を設けたコース改修を行うことが、重要な取り組みであることが明らかになった。